

初の出会いは高知梶が森標高 1400mの山頂部に広がる草原である。中学校 1 年時代、クラブ活動科学班行事として理科担当の故岡本盛康先生が梶が森登山昆虫探索を企画・案内して下さったときのこと、標高 800mあたりにある仏嶽寺で一泊したあくる朝、ガクアジサイの咲く緩やかなスロープをたどり、やがて幾筋か山頂部へと続く赤土の荒れた小路が現れるともうあたり一面が草原で、小路をたどらなくても草地を踏み込みながら山頂へと進むことが出来る。その踏み込みでいきなり飛び出したのがウラギンヒョウモンで、高知市などの平地ではみられなく、高知では完全に山地性のチョウだ。新鮮個体に出会うと、平地に多いツマグロヒョウモンとは異なる裏面の銀色紋の輝きが強烈なインパクトを与えてくれる。

その後、家族旅行で信州方面へと出かけるようになると、あちこちで普通に飛び交うチョウの仲間入りとなって、八重山諸島でのスジグロカバマダラがそうであるように、よほどの新鮮個体でない限りネットインを計る対象ではなく、入笠山で久しぶりに裏面が見事に銀色に輝く個体を観察して標本にしている。ビデオカメラを駆使するようになってからは、アザミを訪れる情景を狙ったりしてみるのだが、多くの場合、山の草原では風が吹いてアザミが揺れ、さらには忙しく吸蜜



Aug.19,2008 長野入笠山
ウラギンヒョウモン



80819 入笠山 ウラギンヒョウモン

するウラギンヒョウモンが、なかなかこちらの望む体勢をとってくれないなど、野外における自然状態のチョウの撮影は、終わりなくいつまでも楽しめる趣味だ。カメラだけで見事なチョウのスナップ撮影をされる友人が多いなか、筆者はもっぱらビデオカメラに頼ってしまっている。

ウスイロヒョウモンモドキの観察会当日ビデオ撮影したなかから静止画像として取り出した画像を示すが、右は羽化したばかりかと思うきれいな大型の♀。2015年7月の観察会の終盤、風当たりが少ない谷となった部分に咲くア



July 12, 2009
長峰ハチ高原



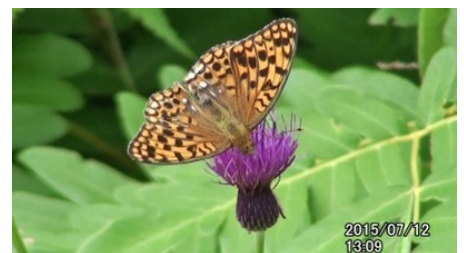
July 12, 2009



2015/07/12
12:09



2015/07/12
13:08

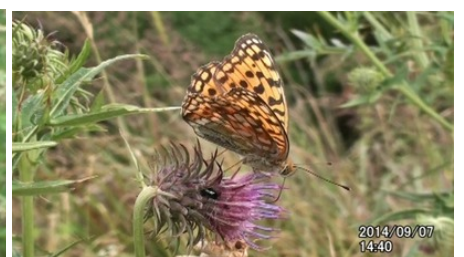


2015/07/12
13:09

ザミには複数のウラギンヒョウモンが訪れており、左前翅に小さく白変異紋がみられる個体や明らかに後翅に明瞭に白い変異紋がみられる個体も



2014/09/08
12:03



2014/09/07
14:40

みる。同様の変異個体は 2014 年 9 月の信州ドライブ旅行の際、女神湖の白樺高原でも記録していて、それほど珍しい変異ではないようだ。

Sep. 3, 2016 諏訪湖新作花火大会の合間にチョウ探索

19時から諏訪湖で開催される第34回全国新作花火競技会の鑑賞目的で、9月2日の9時半に高砂を出発。翌3日の8時前には霧ヶ峰高原につき、マツムシソウの群生する一角で花蜜を求めて飛び交うイチモンジセセリ、ウラギンヒョウモン、モンキチョウを見るが、期待したクジ



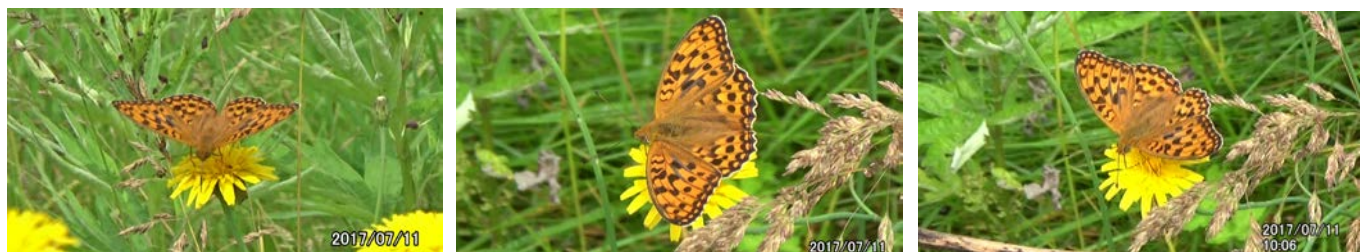
ヤクチョウやキベリタテハの姿はない。霧ヶ峰高原へと戻って、マツムシソウで吸蜜中のモンキチョウを撮影したあと、白樺湖を經由して女神湖の白樺高原へと移動し、アザミが群生する草原に入り込むと、新鮮度が落ちたウラギンヒョウモン、ミドリヒョウモンが乱舞する今年の訪問時と同じ光景をみる。アサギマダラが林の奥からフンワリと緩やかな飛翔でやってきてア



ザミの花蜜を吸い始めるので深い草をかき分けながら近づくと、左前翅先端が欠けた個体。ミドリヒョウモンは撮影対象にできる個体がいなく、ウラギンヒョウモンのできるだけ翅に傷みの少ない個体を探してアザミの間を動くと、薄手のズボンの上からアザミのトゲがあちこちに刺さって痛い。

July 11, 2017 : 北海道愛山溪

かつてオオイチモンジをみた二股の右奥ダムまで行こうとしたが途中が工事中で進めず、その往復途上に1999年の訪問時に路面で吸水していたコヒオドシやミヤマカラスアゲハなどのチョウの姿が全く見られないという寂しい状況。やむなく一気に高度を下げてブタナが一面に咲く広場へと戻り、黄色い花に



群がるウラギンヒョウモンを「青少年のための科学の祭典」用に妻と二人でネットインして過ごす。裏面の模様が微妙に異なる個体変異がみられるがヤマウラギンヒョウモンではない。